



令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（101） 学校名 豊田市立崇化館中学校

1 テーマ

「麦の会」を核としたボランティア活動を通して

2 ねらい

本校には、昭和51年にボランティア・グループとして立ち上がった「麦の会」がある。平成13年度には、その組織を部活動の中に組み入れ、現在も立ち上げ当初からの精神を引き継ぎ、地域でのボランティア活動に取り組んできた。

令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動の縮小を強いられたが、令和4年度から地域や施設との関わりを再度強め、令和6年度は地域の活動の拠点となる交流館との連携をさらに深めるとともに、地域でボランティア活動を進める。

「麦の会」や「美術部」に所属する生徒たちは交流館職員と情報交換を行うなど、ボランティア参加を前提として、地域の質の高い活動づくりに参画していく。また、校内では、「麦の会」に所属する生徒たちが全校生徒からボランティアを募り、より多くの生徒たちとともに、地域でのボランティアに参加する機会を作って活動を進める。また、国土交通省と連携して行っている「フラワーロード」の活動も、保護者と協力しながら行うボランティア活動として活動を進め、地域を愛する豊かな心の育成を目指す。

また、校内の教育環境・指導体制を整えて生徒の心の安定を図ったり、相談室登校の生徒への対応を行ったりするために「心の相談員」や「校内整備員」を配備し、きめ細かい指導を行っていく。

3 活動内容

○麦の会を核としたボランティア活動

福祉活動：養護老人ホーム若草苑・障がい者福祉会館・子育て総合支援センターへの訪問と行事でのお手伝い

地域活動：交流館での活動・崇化館交流館祭「夢フェスタ」での地域行事スタッフ活動

○親子でのボランティア活動

- ・国土交通省、育友会（PTA）と連携した「フラワーロード」活動
- ・地域会議、育友会（PTA）と連携したあいさつ運動

○心の相談員の配備で、相談室登校の生徒、不登校生徒の心を安定させる。

○校内整備員の配備で、教育環境を整えるとともに、校務主任が教育活動にあたる時間を十分に確保し、学校の教育活動を充実させる。

4 成果と課題

「フラワーロード」の活動を、国土交通省及び育友会活動との連携を図るとともに、生徒ボランティアを募って行う活動が定着し、保護者にも本事業の内容やそのよさを実感していただけたようになつた。2回（9月の活動は高温による熱中症対策のため中止）の活動で延べ人数にして約20名の保護者にも参加をしていただけた。より多くの生徒がボランティア活動に参加する機会を作るために、ボランティアの募集はボランティアを行う部活動「麦の会」が中心となって行った。本年度も校内で「フラワーロード」活動のボランティア募集を5月、9月（募集は行つたが活動は高温による熱中症対策のため中止）、12月に全校生徒を対象に行つた。今年度は延べ人数にして約250名の生徒が参加することができた。さらに、活動の進行も「麦の会」の生徒が行い、この活動の運営を「麦の会」主体で行うことができた。参加した生徒や保護者から「参加してよかったです」「楽しく活動することができた」「地域の人から『ありがとうございます』と言われて嬉しかった」「次回も参加したい」といった声がたくさん聞かれたことから、達成感のある活動となつたことが分かった。地域の交流館祭での活動をはじめ、地域で「麦の会」の生徒が活躍する姿がよく見られる。今後は「麦の会」以外の生徒もボランティアに積極的に参加できるような環境づくりをしていきたい。

本事業を核として、今まで以上に地域と関わり、地域に愛着をもち、実際に地域に貢献する体験活動を広げていきたい。そして、より多くの生徒、保護者が、本事業の活動を通して、地域に関わりながらボランティアとして活動できるよう、地域コーディネーターや育友会、地域の方々とともに本事業の計画を作成し、活動を展開していくことを課題としながら、本事業の価値を高めていきたい。

「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果として、心の相談員があとラウンジ登校生徒との相談活動を定期的に実施し、個々の生徒の心の安定を保つことができた。また、教室に行けなくなった生徒があとラウンジで学習を続けたり、心の相談員と学級担任があとラウンジ登校生徒の状況についてコミュニケーションを密に取りながら適切な対応を検討したりするなど、効果的な支援を継続することできた。校内整備員は校務主任や公務手と連携をとりながら、グラウンドの除草や草木の剪定を定期的に行つなど、教育現場にふさわしい校内環境を生み出すことができた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

フラワーロードボランティア活動への取組（合計2回）をホームページで更新し、紹介した。また、その活動の様子や活動後の生徒の感想を学級通信、生徒指導通信で生徒たちに紹介した。地域コーディネーターが発行する通信は「きずなネット」を利用して保護者に紹介した。